



防災地図作製アプリ 学童教材向け開発

東京都市大

できる判断力を養成する。

同アプリはタブレット端末向け。地図の見た方を習っていない児童でも使えるように、地図記号ではなく店舗名を表示するなど工夫した。情報通信技術（ICT）や野外活動を組み合わせた体験授業により、児童の防災意識を高められる。

また通学路などで行う発災型防災訓練を併用すれば、児童が自主的に安全な迂回路を考えられるようになる。

東京都新宿区立愛日小学校の協力を得て、試験的に授業を実施している。4年生43人が10グループに分かれ、消火器や消火栓の場所をはじめ、担当するエリアごとにハザードマップを作製。街全体に対する理解を深められたという。

授業の一環でハザードマップ作りに取り組む生徒（東京都市大提供）

東京都市大学知識工学部経営システム工学科の岡誠講師らは、小学生でも防災地図（ハザードマップ）を作製できるアプリケーションを開発した。授業で児童が自らハザードマップを作製し、災害発生時に自ら安全を確保